









学位論文審査の結果の要旨

審査区分 課・ 	第 351 号	氏 名	白 浜 正 直
審 査 委 員 会 委 員		主査氏名	藤 木 稔 
		副査氏名	今 井 浩 光 
		副査氏名	木 村 成 志 
<p>論文題目 The Relationship between Anxious Temperament and Harm Avoidance in Medical Students and Staffs (医学生と医療スタッフにおける不安気質と損害回避との関係)</p> <p>論文掲載雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences</p> <p>論文要旨</p> <p>TEMPS-A (Temperament Evaluation of Memphis, Pisa, Paris and San Diego-Auto questionnaire) は、抑うつ気質、循環気質、発揚気質、焦燥気質、不安気質の 5 つの気質を、TCI (Temperament and Character Inventory) は、気質 (新奇性追求、損害回避、報酬依存、固執) と性格 (自己志向、協調、自己超越) を評価する自己記入式質問紙である。TEMPS-A と TCI との関係、特に不安気質と損害回避の関係は明確になっていない。</p> <p>TEMPS-A と TCI の両方を実施した 111 人の健康な被験者(男性 67 名、女性 44 名、平均年齢 26.3 歳)を対象とした。ピアソンの相関係数を被験者の年齢、性、TEMPS-A の下位尺度(気質評価)点、TCI の下位尺度(気質・性格評価)点間で計算、次いで二段階の回帰分析を強制投入法にて行った。不安気質得点を従属変数として損害回避得点は除き、年齢、性、他の TEMPS-A の下位尺度得点、他の TCI の下位尺度得点を独立変数として実施、次いで損害回避得点を独立変数として追加実施した。他方、損害回避得点を従属変数として、不安気質得点は除き、年齢、性、他の TEMPS-A の下位尺度、他の TCI の下位尺度得点を独立変数として実施、次いで不安気質得点が独立変数として追加実施した。</p> <p>不安気質と損害回避には有意な正の相関があった。不安気質は、抑うつ気質、循環気質、焦燥気質、損害回避、抑うつ状態と有意な正の相関があり、新奇性追求や自己志向とは有意な負の相関を示した。損害回避は、抑うつ気質、不安気質、抑うつ状態と有意な正の相関があり、発揚気質、新奇性追求、固執、自己志向、自己超越とは有意な負の相関を示した。</p> <p>不安気質には「抑うつ傾向」、損害回避には「受動的な傾向」があった。被験者数、平均年齢 26.3 歳、職業偏在などの限界があるものの不安気質と損害回避の有意な正相関をより詳細に検討できた。</p> <p>本研究は、不安気質と損害回避の正の相関の臨床的意義を明らかにしたものであり、その価値を考慮し、審査委員の合議により本論文は学位論文に値するものと判定した。</p>			

~~最終試験~~

の結果の要旨

学力の確認

審査区分 課・ 	第351号	氏名	白 浜 正 直
審 査 委 員 会 委 員	主査氏名	藤 木 稔 	
	副査氏名	今 井 浩 光 	
	副査氏名	木 村 邦 彦 	
<p>学位申請者は本論文の公開発表を行い、各審査委員から、研究の目的・方法・結果・考察について次のような質問を受けた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 仮説：不安気質と損害回避の正の相関(既報：Akiskal HS, 2005)に注目した理由・臨床的意義、同一対象に同時に併用されないTEMPS-AとTCIに注目した背景を、先行研究における対象、自殺との関連などにも言及し概説せよ。 2. 対象拡大・人種の差違で結果が異なる可能性を考察せよ。 3. 損害回避気質のセロトニン仮説を概説せよ。 4. 神経伝達物質の気質への影響・性格の遺伝子診断の可能性について述べよ。 損害回避はセロトニン機能修飾薬物投与の治療経過などで変化するか、遺伝的に規定され固定したものか。 5. 被験者の研究参加同意プロセスについて述べよ。 6. 回帰分析における共変数検討の必要性、Forced entry methodの具体的手法について述べよ。 7. 被験者数算定の根拠と研究結果に及ぼし得る影響について述べよ。 8. 不安気質と損害回避の関連に関して想定されるメカニズムを概説せよ。 9. 不安気質と気分障害の関連について述べよ。 10. 本研究結果の自殺促進因子としての影響、今後の医療に及ぼすインパクトについて述べよ。 <p>これらの質問に対し、申請者は概ね適切に回答した。よって審査委員の合議の結果、申請者は学位取得有資格者と認定した。</p>			

(注) 不要の文字は2本線で抹消すること。